

◎市長（山田憲昭君）

これは、国土交通省金沢河川国道事務所、それから県、そして市、関係団体とそういったことを決めました。

そういった中で、1から5段階まであるんですけども、そういったことを皆さん方の家庭に全部配布をいたしまして、冷蔵庫等に張っていただいて、この段階、1から5番までどうですか、そしたらそこに、下に避難場所、第1次避難場所とか、そういったことを張ってくださいよという、市民向けに全戸に配布をいたしております。

いずれにいたしましても、我々は河川国道事務所長と私とは、ホットラインを持っておりますし、气象台ともホットラインということでやっておりますけれども、いかに早く住民の皆さん方に周知をしてもらえるようにするのか、そして、また行動の1から5段階、少しずつ国も変わっておりますけれども、そういったことを理解していただくということで配布をしております。

それとあわせて、今年度から進めましたように、防災行政無線の戸別受信機、そういったものを整備することによって、早く住民と我々たちが情報を共有するという形でそういった整備をしていると。

ですから、ソフト、ハードを含めてやっていることはそれなんですけど、残念ながら、台風19号のときもありましたけれども、1週間にわたってずっとこれは最大級の災害が起きますよという報道がありましたけれども、やっぱり避難している人が少ないという、このことは実態としてありますので、もちろんいろんな形でそういった避難をすることをうまく周知できるような形、これはまさしく関東、東北地方でもそういった実例がありますので、そういったことを踏まえて、もう少し周知できるような形、そういったものはもっともっとやっていかなきゃなんなというふうに思っておる次第であります。